
ニューズレター ・ JASESS No.99

社会・経済システム学会 2020年4月26日

■社会・経済システム学会第39回大会のご案内

第39回大会は、東京工業大学で開催されます。ふるってご参加ください。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、Web会議形式での開催となる場合があります。

大会テーマ：「主体を含む人工物としての社会・経済システム」

開催日：2020年10月31日（土）・11月1日（日）

場所：東京工業大学 大岡山キャンパス

大会実行委員長：出口 弘 会長

大会実行副委員長：小山 友介 会員 大会事務局長：中村 仁 会員

連絡先メールアドレス：jasess-conf2020@jasess.jp

【大会テーマ趣旨説明文】

社会・経済システムは、その構成要素として主体・組織・制度のみならず、機械装置から情報ネットワークまで様々な技術的産物も含むシステムである。それゆえ社会・経済システムは人が意図して或いは意図せざる形も含め構築した技術社会複合体としての人工物である。主体を含む人工物としての社会・経済システムに対して妥当な知のありようを構築することは、積年のシステム科学の課題でもある。

システムという概念は、我々が世界を認識し理解し働きかけるための枠組みである。そこでは、何らかの言語により対象を認識し理解するためのモデルを構築するシステムモデリングと、得られた知識をもとに何らかの意図に応じて社会へと介入するシステム実践の両者が課題となる。前者はモデル真偽について真偽のコードでの評価とコミュニケーションがなされ、後者では、対象の理解や解釈は妥当であるか、対象に対する意図と介入の目的は妥当であるか、目的を実現するための代替案(政策シナリオ)は妥当であるか、代替案選択のための合意形成は妥当であるか、代替案の実行は妥当であるか、目的に対して得られた結果が妥当であるかなど、妥当性のコードでの重層的な評価とコミュニケーションがなされる。

そこでは、対象に対する認識や解釈に基づき、何らかの意図に基づき達成すべき目的を創生し、目的を実現するための代替案を提起し、代替案の選択に関する合意を形成し、代替案に基づき介入を実行し、介入の結果として対象の変化を把握・評価すると同時に、そのようにして書き換えられた新しい現実に対する新たな認識や解釈を構築するという循環的なプロセスが問題となる。この循環的なプロセスとしてのシステムモデリングとシステム実践に対する適切な知の運用とは何か問われねばならない。対象となる古い現実への介入の結果は目的に即して評価されるだけではない。産業革命やインターネット革命がそうであったように、大規模な社会の改変において、我々の社会の現実そのものが技術のみならず組織や社会のあり方を含めて変容し、その変化が新たな認識や解釈と意図を生み出すという循環プロセスが生じている。この循環プロセスでは、真偽のコードによる評価とコミュニケーションとは異なる、プロセスの様々な側面で妥当性のコードに関する評価とコミュニケーションが求められる。

インターネット革命の後に出現したグローバルな社会・経済システムでは、その基盤となる産業やエネルギーなどのハード技術、情報ネットワークや AI をはじめとする様々なソフト技術の

みならず、その上での人々の働き方や働く場所、消費や生産・販売の組織とそのマネジメントのありよう、ビジネスモデル、社会制度、様々な社会的な機能と構造とそれらに関する膨大なデジタルデータが、累積的にしかも急速に書き換えら蓄積されている。人々の社会に対する理解や解釈そのものも大きく変容しており、その背後にある解釈の構築を媒介するシンボリックな相互作用の構造もまた大きく変化している。この変化は人間にとって決して望ましい方向に向いているわけではない。変化の道筋を人間の生きる地平として望ましい方向へと向けるためには、そのプロセスの手綱を握るための理論と方法と実践が真摯に求められる。

本大会では、社会・経済システムを理解し説明する知だけでなく、あり得る現実をデザインし、今ある現実へ介入し、変化をもたらす道筋を実践し、その道筋を管理するシステム知の総体について、さまざまな視点からのアプローチが求められる。主体を含む人工物としての社会・経済システムに対して、多様な観点からの方法的・理論的・実践的な研究発表と盛んな議論が行われることを期待する。

1. 報告をご希望の方は、所属機関・氏名・報告論題・報告要旨(400字～600字程度)等を **2020年6月15日(月)必着**で、学会 Web サイト「全国大会」ページの「第39回大会報告申込フォーム」にリンクしております Google フォームよりご応募ください。ご報告の採否は2020年7月末までに通知する予定です。
2. ご報告いただくことになった際には、**2020年9月15日(火)必着**でA4版×2枚ないし4枚(偶数枚のみ)の報告要旨原稿をお願いすることになります。なお、報告要旨原稿の投稿までに、本年度の年会費を納入して頂くことが必要です。あらかじめご了承ください。

■学会誌『社会・経済システム』第39号・第40号・第41号について

第39号を発行しました。5月中に会員に郵送いたします。年会費振り込み用紙も同封いたします。第40号については刊行が大幅に遅れましたが、現在編集中で今年度中の刊行を予定しております。いましばらくお待ち願います。

第41号への論文投稿を募集しています。**投稿締切は2020年6月30日**です。

原稿の送信先：socsys_editors@@@cm.kansai-u.ac.jp、および、ttakase@@@kansai-u.ac.jp

(いずれも@を2つ削除。両方のアドレスに送信してください。)

なお、投稿に際しましては、学会 Web サイトの「編集委員会からのお知らせ」も必ずご参照ください。

■第38回大会は好評裡に終了しました。

社会・経済システム学会第38回大会は、「意思決定と社会・経済システム」と題する大会テーマのもと、2019年10月26日(土)・27日(日)の両日、名古屋工業大学御器所キャンパスで開催されました。大会テーマのもと、両日にわたり分科会・企画シンポジウムにおいてそれぞれの報告者からこの分野における研究の最新動向について報告が行われるとともに、大会は盛況のうちを終了することができました。大会の開催に尽力されました名古屋工業大学の兼田敏之実行委員長をはじめとする大会実行委員の皆様のご尽力に深く感謝いたします。

■社会・経済システム学会 2020 年度研究会のご案内

下記のとおり研究会を開催します。ふるってご参加ください。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては変更になる場合があります。

テーマ：新しい資本主義と社会・経済システムのデザイン

日時：2020年7月11日（土）13:00～17:00

開催場所：京都大学 法経東館 3 階 311 演習室 <https://www.econ.kyoto-u.ac.jp/access/>

参加費： 無料

参加申込方法：社会・経済システム学会 Web サイト (<https://jassess.jp/>) (5月1日オープン予定)

趣旨：

現在の日本は人口減少、格差拡大、デジタル経済への対応、地球規模の環境問題などさまざまな喫緊の課題を同時に解決することが求められています。

このためには、社会経済システムの大きな転換のデザインが必要ではないでしょうか。

この研究会では、これからの社会経済システムについて、何を解決すべきか、どのような代替案を考えうるのか、そしてそれはどのようにして評価し、実施につなげるのかを、これらの課題に取り組まれている3名の先生方をお招きし討議します。

ご講演：

- ・諸富 徹 氏（京都大学経済学部教授）

テーマ：資本主義の新しい形

諸富先生のご著書「資本主義の新しい形」（岩波書店）の内容を中心にご講演いただきます。

- ・広井 良典 氏（京都大学こころの未来研究センター教授）

テーマ：人口減少社会のデザイン

広井先生のご著書「人口減少社会のデザイン」（東洋経済新報社）の内容を中心にご講演いただきます。

- ・村田 忠彦 氏（関西大学総合情報学部教授）

テーマ：リアルスケール社会シミュレーション

仮想的人口を統計から合成する合成人口という手法でリアルスケールのエージェントベースの社会シミュレーションを行う手法についてご講演いただきます。以下の紹介ビデオをご参照ください。 <http://www.hpc.cmc.osaka-u.ac.jp/hpsc-news/vol06/>

総合討論

- ・コーディネータ：松井 啓之 会員（京都大学 経営管理大学院）

喜多 一 会員（京都大学 国際高等教育院）

ご講演頂く3人の先生とこれからの社会経済システムについて討議します。

主催：社会・経済システム学会

共催：計測自動制御学会社会システム部会（依頼中）

■2018 年度会計報告および 2019 年度予算

2019 年 10 月 26 日 (土) の総会で承認された 2018 年度決算と 2019 年度予算について、次のとおりご報告申し上げます。学会 Web サイト「学会について」のページにも掲載しています。

社会・経済システム学会 2018 年度 会計報告

1. 収支決算書 (2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

支 出		収 入	
通信費	54,099	会費	1,141,000
アルバイト謝金	2,400	一般会員	(1,057,000)
大会運営費	381,366	学生会員	(84,000)
理事会費	47,670		
学会誌編集委員会費	83,060	利子	39
印刷費(学会誌第 38 号)	349,920	三菱東京 UFJ 銀行 (普通)	(14)
(財) 日本学術協力財団分担金	50,000	ゆうちょ銀行 (普通)	(25)
部会費	22,500		
HP システム保守費	64,800		
事務局	29,280		
当期支出小計	1,085,095	当期収入小計	1,141,039
予備費	4,924,838	前期繰越金	4,868,894
合計	6,009,933	合計	6,009,933

2. 貸借対照表 (2019 年 3 月 31 日現在)

借 方		貸 方	
三菱東京 UFJ 銀行 (普通)	858,822	次期繰越金	4,924,838
ゆうちょ銀行 (振替)	1,071,020		
ゆうちょ銀行 (普通)	2,994,996		
合計	4,924,838	合計	4,924,838

社会・経済システム学会 2019 年度 予算

予算 (2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

支 出		収 入	
通信費	45,000	会費	1,196,000
消耗品費	5,000	一般会員	(1,092,000)
大会運営費	190,000	学生会員	(104,000)
研究会運営費(関東・関西支部会)	70,000	学会誌バックナンバー販売	20,000
学会誌編集委員会費	60,000		
(財) 日本学術協力財団分担金	50,000		
印刷費(学会誌第 39 号・J-Stage 等)	510,000		
Web サイト管理費	20,000		
事務局業務一部委託費	410,000		
	-		
当期支出小計	1,360,000	当期収入小計	1,216,000
予備費	4,780,838	前期繰越金	4,924,838
合計	6,140,838	合計	6,140,838

■新入会員紹介

次の方々の入会が2019年10月26日（土）の総会で承認されました（敬称略）。

	氏名	所属	専門分野	区分
1	タカハシ コウセイ 高橋 宏誠	日本経済大学	価値システム、組織開発	一般
2	コノマツ マサヒコ 此松 昌彦	和歌山大学	地質学、防災教育	一般
3	オオニシ マサトモ 大西 正曹	関西大学	中小企業論、地域経済、 地域再生、産業社会学	一般
4	チン キンエイ 陳 欣瑩	東京大学大学院学際情報学府	社会情報学	学生
5	ナカヤマ イクエイ 中山 郁英	合同会社 kei-fu	デザイン学、行政学	一般
6	ミズタニ ミチ 水谷 美知	東京工業大学大学院	情報工学	学生
7	リュウ ケン 劉 軒	芝浦工業大学大学院理工学研究科	社会システム	学生
8	ヤギ ショウタロウ 八木 翔太郎	東京大学大学院学際情報学府	学際情報学	学生
9	チン インジョ 陳 韻如	滋賀大学経済学部	組織間関係論、経営戦略論	一般
10	イムラ ナオエ 井村 直恵	京都産業大学経営学部	経営戦略論、組織論	一般
11	ドウセン コウキ 道仙 光輝	芝浦工業大学大学院理工学研究科	アニメ産業	学生

■会費納入のお願い

機関紙第39号と合わせて「年会費ご請求のお知らせ」「会費納入の払込用紙」（ゆうちょ銀行）を同封しております。

2020年度も会費ご納入のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

■変更事項のご連絡のお願い

ご住所、ご所属、その他、会員情報にご変更がございましたら、学会事務局までお知らせください。変更・入会・退会に関する手続きについては、学会サイト Web サイトの「学会について」のページにも掲載しています。

■シニア会員制度について

2017年度よりシニア会員制度が設けられました。一定の条件を満たす方は、理事会および総会の承認を受けることにより、一般会員の会員資格変更が可能になります。条件等につきましては、学会 Web サイトの会則をご覧ください。2021年度からのシニア会員の申請希望者は、9月末までに学会事務局までお申込ください。

■学会 Web サイトの URL および事務局連絡先

学会 Web サイト：<https://jasess.jp>

学会事務局：jasess-newoffice@jasess.jp